

特集

コンタクトレンズの輸入



令和6年4月17日
東京税関

- ★ 2023年は輸入数量・輸入金額ともに過去最高！
- ★ アイルランド、台湾、プエルトリコからの輸入が7割以上を占める！
- ★ 東京税関管内の輸入が全国トップ！

【はじめに】

現代ではスマートフォンなど手元で扱う端末による眼の酷使から視力低下が起きるケースが増えているようです。また、低下した視力の補正のため、以前からメガネやコンタクトレンズが使用されてきましたが、近年メガネよりもコンタクトレンズを選択する人が増えているようです。

東京税関では6年前の2018年にも同じテーマで「2017年は輸入数量及び金額ともに過去最高！」と特集記事を作成しました（右図1参照）。

今回、改めて最近の輸入動向を調べたところ、2017年以降も、2020年を除き、毎年輸入数量及び輸入金額が増加し、2023年も過去最高となっていましたので、前回取り上げた2017年の輸入動向との比較も行いながら再度コンタクトレンズの輸入について取り上げることにしました。

本特集の「コンタクトレンズ」は、輸入統計品目番号 第9001.30号 に分類されるものについてまとめたものです。本特集の輸入数量及び輸入金額については、2022年以前は確定値、2023年は確々報値です。

図1 6年前（平成30年（2018年）9月）の特集記事から抜粋

【輸入動向（年別推移）】

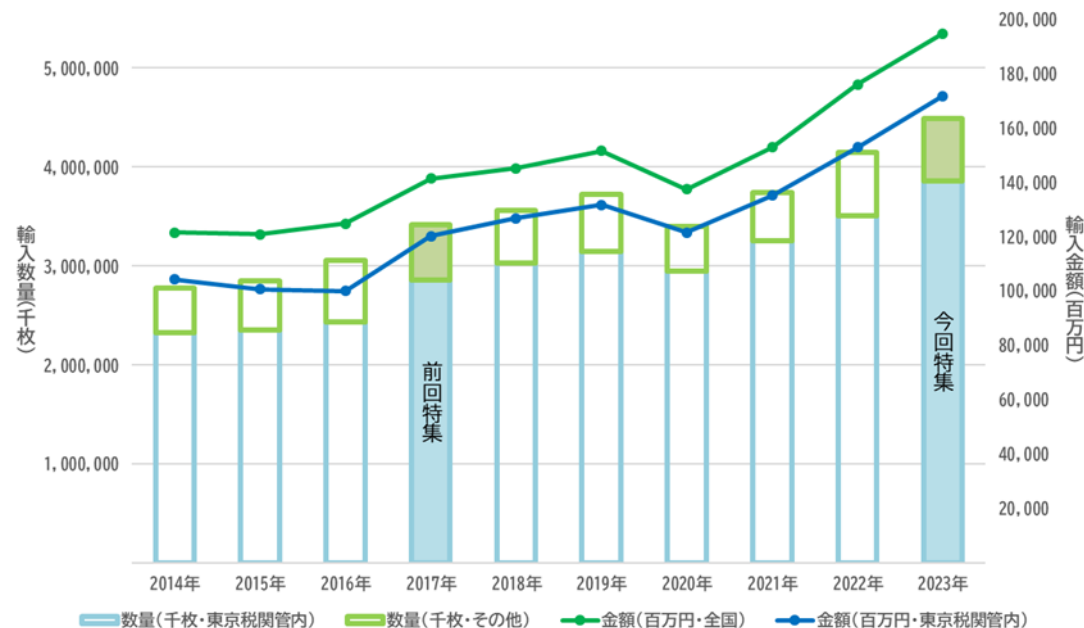
右図2は、全国及び東京税関管内のコンタクトレンズの年別輸入動向のグラフ及び表です。

まず全国の輸入動向についてですが、前回特集の2017年時点で、輸入数量が約34億1千万枚、輸入金額が約1,413億円と、当時過去最高でした。

その後も増加傾向は続き、2020年に輸入数量及び輸入金額が一時減少したものの、その翌年（2021年）には過去最高となる程まで増加し、その後もそれまでの増加率を上回る勢いで増加した結果、2023年には輸入数量が約44億9千万枚（2017年比約1.32倍）、輸入金額が約1,946億円（同約1.38倍）に達し、過去最高を記録しました。

日本コンタクトレンズ協会によりますと、2020年に輸入数量及び輸入金額が一時減少した要因は、新型コロナウイルス感染症の影響により外出する機会が減少したため、コンタクトレンズの使用が控えられたのではないかとのことでした。また、それ以降の輸入増については、新型コロナウイルス感染急拡大の波が落ち着き、徐々に感染対策をした上での外出が増えていった中で、1日使い捨てタイプのコンタクトレンズ利用者の増加や遠近両用タイプのコンタクトレンズの伸長による年齢層の拡大も相まって、2023年においては輸入数量及び輸入金額が過去最高となったのではないかとのことでした。

東京税関管内においても、全国の輸入動向と同様に増加傾向を示しており、2023年の輸入数量及び輸入金額が過去最高となりました。



年	全国		東京税関管内	
	数量(千枚)	金額(百万円)	数量(千枚)	金額(百万円)
2014年	2,772,592	121,317	2,326,447	104,090
2015年	2,843,937	120,730	2,349,424	100,500
2016年	3,056,502	124,563	2,431,360	99,809
2017年	3,412,690	141,258	2,857,878	120,018
2018年	3,564,640	144,930	3,032,286	126,563
2019年	3,719,562	151,454	3,146,209	131,483
2020年	3,398,742	137,216	2,943,041	121,366
2021年	3,743,414	152,617	3,257,582	134,938
2022年	4,147,882	175,761	3,505,747	152,655
2023年	4,487,954	194,604	3,856,684	171,592

図2 輸入動向（年別推移）全国及び東京税関管内

【国・地域別輸入動向（2017年と2023年の比較）】

右下図3は、2017年と2023年の国・地域別の輸入数量及び輸入金額を比較したものになります。

2017年と2023年とでは、輸入数量及び輸入金額の多い国・地域は変わらず、上位からアイルランド、台湾、プエルトリコの順となっており、2023年は、これらの3か国・地域だけで7割以上を占めていることが分かります。

これらの国・地域からの輸入が多い理由について、日本コンタクトレンズ協会によりますと、アイルランドやプエルトリコには、コンタクトレンズ大手の生産工場が所在しており、また、台湾には、多数のクリアレンズ及びカラーコンタクトレンズの工場があり高品質なコンタクトレンズの大量生産が可能であるためとのことでした。

なお、2023年は上位の国・地域いずれも輸入数量及び輸入金額が伸びており、中でも台湾の伸びが顕著なのは、カラーコンタクトレンズのファッション性の高さから10代、20代の女性を中心に人気があり生産が好調なためとのことでした。

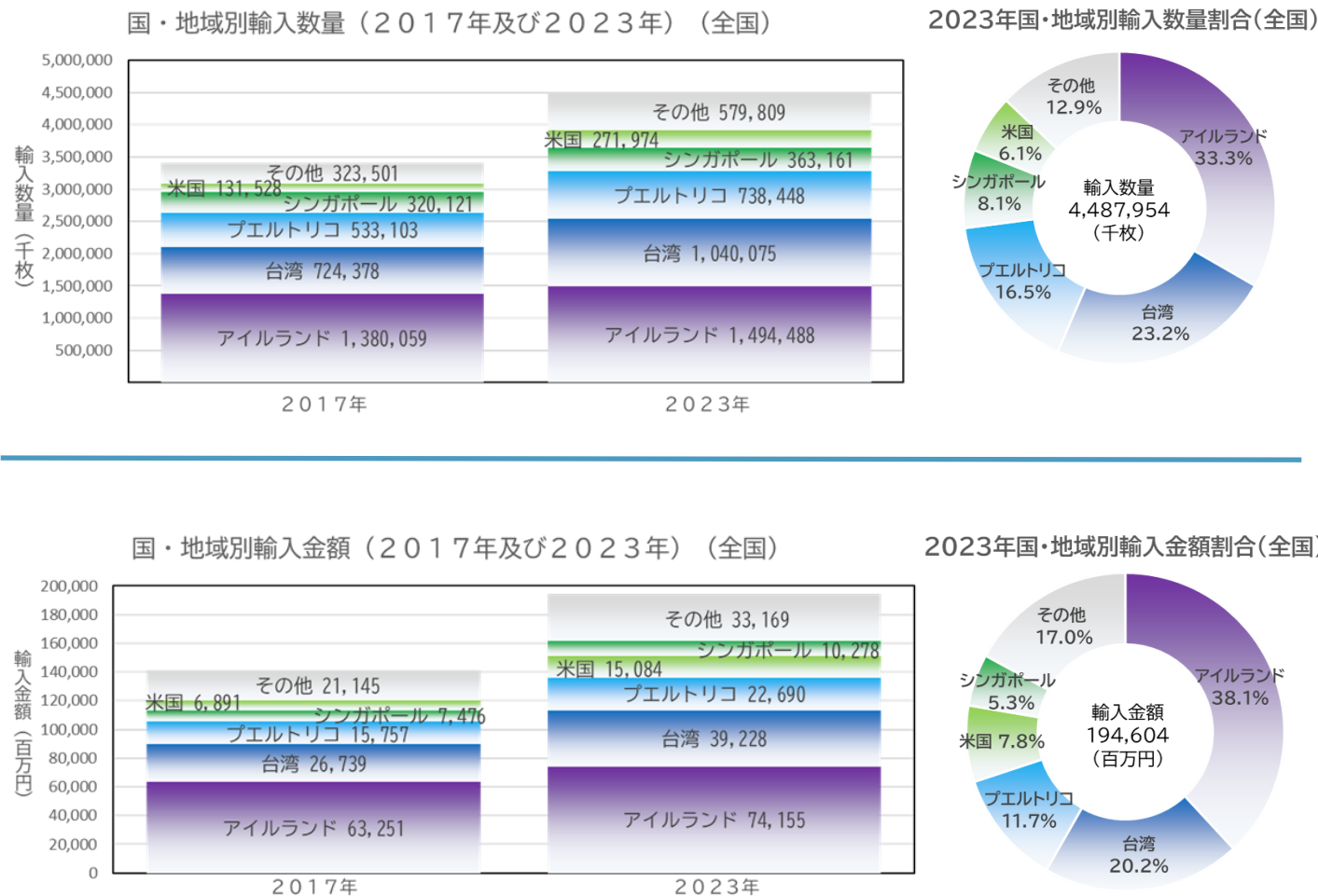


図3 国・地域別輸入動向（2017年と2023年の比較）（全国）

【税関別輸入動向（2017年と2023年の比較）】

右下図4は、2017年と2023年の税関別の輸入数量及び輸入金額を比較したものになります。

2017年と2023年とでは、輸入数量及び輸入金額の税関毎の割合はほぼ変化がなく、2023年の東京税関の割合は、輸入数量が約86%、輸入金額が約88%と極めて高くなっています。

この要因について、日本コンタクトレンズ協会によりますと、コンタクトレンズ大手の本社や物流拠点が東京近郊に所在しているの、物理的に近い東京税関管内の港を利用しているのではとのことでした。

また、コンタクトレンズは高度管理医療機器に指定されており、失明など重大な事故にもつながりかねないことから厳重な温度管理が必要となります。このような事情から運送期間が短い台湾やアジアなど近距離地域から輸入する場合は船便を利用することが多い一方で、アイルランドやプエルトリコなど遠距離地域から輸入する場合は温度管理の必要期間を短縮するため航空便を利用することが多いようです。結果、これらの地域からの便数が多い羽田空港や成田空港が利用されるため、東京税関管内の占める割合が大きいのではないかとのことでした。

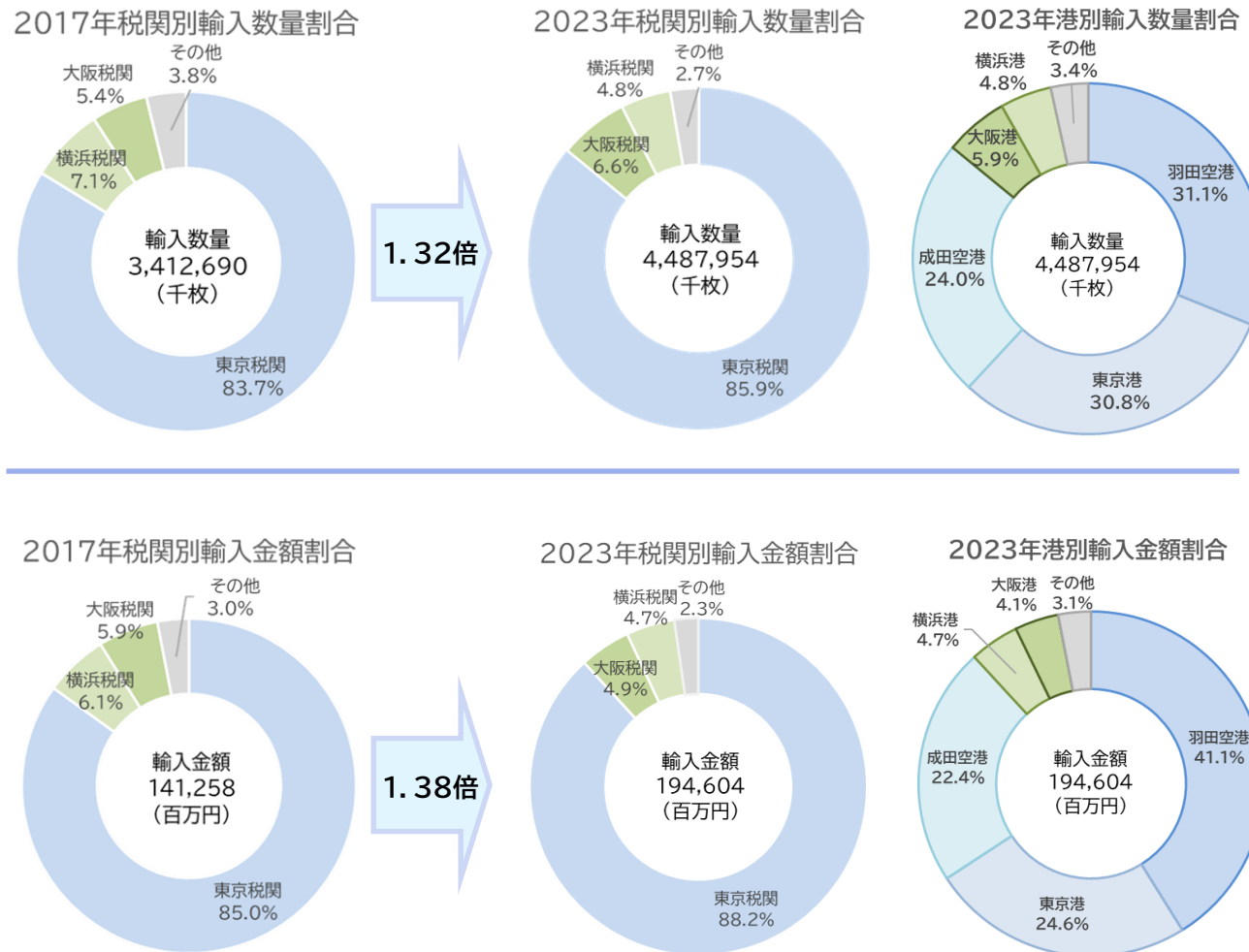


図4 税関別輸入動向（2017年と2023年の比較）及び2023年港別輸入割合

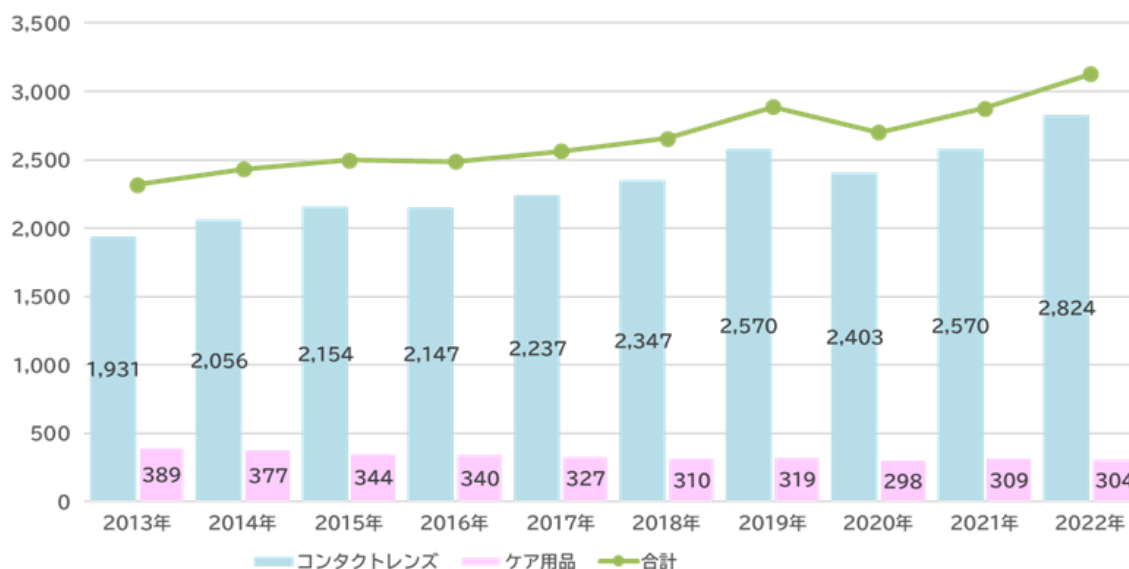
【コンタクトレンズ、ケア用品の市場規模（日本国内）】

日本コンタクトレンズ協会は、毎年協会の正会員を対象に市場規模（製造販売業者・卸売販売業者からの出荷額）の調査を行っており、下の図5は、その調査結果を表したものとなります。この図からコンタクトレンズの出荷額は、2013年以降、2020年を除き年々増加しており、逆にケア用品の出荷額は少しずつですが減少していることが分かります。

これらの出荷額の増減は、使い捨てタイプ、中でも1日使い捨てタイプの出荷が好調であることが主な要因のようです。1日使い捨てタイプの利用者の増加に伴い、2週間交換タイプなど他のタイプのレンズと比較して使用枚数が増加するため、コンタクトレンズの出荷額が伸びている一方で、ケアが不要となり、ケア用品の需要が減少しているためケア用品の出荷額が減っているようです。

このような1日使い捨てタイプの利用の増加が輸入増加の要因の一つでもあると思われます。

コンタクトレンズ／ケア用品の市場(億円)

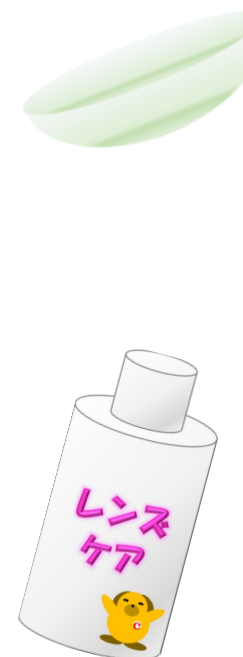


(注)1.金額は製造販売業者・卸売販売業者の出荷額ベース
2.各年の調査期間は1月から12月

(億円)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
コンタクトレンズ	1,931	2,056	2,154	2,147	2,237	2,347	2,570	2,403	2,570	2,824
ケア用品	389	377	344	340	327	310	319	298	309	304
合計	2,320	2,433	2,498	2,487	2,564	2,657	2,889	2,701	2,879	3,128

図5 国内におけるコンタクトレンズ、ケア用品の市場規模（年別推移）



一般社団法人日本コンタクトレンズ協会の資料をもとに東京税関作成

【コラム】コンタクトレンズの種類について

コンタクトレンズと言っても様々な種類のもので製造・販売されています。
コンタクトレンズの種類やその特徴をご紹介します。

○素材による分類

ソフトレンズ：黒目よりも大きい
 メリット：慣れやすくスポーツにも適している。
 デメリット：異物感に気づきにくい。
 涙の少ない人には不向き。

ハードレンズ：黒目よりも小さい
 メリット：乱視矯正に優れる。
 涙液交換がスムーズ。
 異常に気づきやすい。
 デメリット：慣れるまでに通常時間がかかる。

○装用様式による分類

終日装用タイプ：朝つけて、夜寝る前にははずす。

連続装用タイプ：眼科医の指導のもと、就寝時もつけたままであることが可能。

○使用期間による分類

1日使い捨てタイプ：終日装用ではずしたら捨てるタイプのソフトコンタクトレンズ。
 (ワンデー) ケアは不要。

定期交換タイプ：終日装用でコンタクトレンズごとに定められた期間内で使用。
 定期的に交換する。毎日のケアが必要。

長期使用タイプ：使用期間は定められていないが、使用状況等に個人差があるため、眼科での検査によりコンタクトレンズを交換する。
 終日装用の場合、毎日のケアが必要。

【コラム】ケアの種類について

コンタクトレンズの種類によってケアの方法が異なります。
ケアの種類やその特徴をご紹介します。

○ソフトレンズのケア

洗浄・すすぎ・消毒・保存の4つのケアが必要です。

ソフトレンズは水分を含んでおり細菌や微生物が繁殖することがありますので、目から外すたびに「消毒」が必要です。

またタンパク質除去が必要となる場合がありますので、眼科専門医の指示に従ってください。

①マルチパーパスソリューション (MPS)

ひとつの液で洗浄・すすぎ・消毒・保存というすべてのケアが行えるケア用品です。

②過酸化水素製剤

消毒効果が高いケア用品です。その代わり過酸化水素の中和を完全に行わないと装用時に強い刺激を伴うなど安全に使えないことがあります。

③ポピドンヨード製剤

消毒液と中和剤に分かれており、消毒液の主成分がヨウ素であるためオレンジ色をしています。こちらも中和を行わないと再装着できません。

○ハードレンズのケア

①洗浄保存液タイプ

レンズの洗浄と保存を1本で行うものです。洗浄保存液をレンズにつけ、指先で十分にこすり洗いしてから水道水でよくすすぎます。すすいだ後は洗浄保存液を9分目まで入れたレンズケースに収納します。※タンパク質の汚れは別途処理が必要です。

②酵素入り洗浄保存液タイプ

洗浄保存液タイプと取扱方法は基本的に同じですが洗浄保存液に液体酵素液がすでに配合されており、保存中にタンパク質を分解除去します。

一般社団法人日本コンタクトレンズ協会ホームページを参考に東京税関作成
<https://www.jcla.gr.jp/contactlens/care.html>

【コラム】寝ながらつけるコンタクトレンズ!?

コンタクトレンズは起きている時間に装用し、メガネと同様に視力を補正したり、ファッション感覚で瞳の色の見え方を変えたりする目的で利用することが広く知られています。また終日装用タイプ（前ページ参照）のコンタクトレンズを外さずに寝ると眼障害を起こす危険性があるため、寝る前に外すのが一般的です。

しかしそれとは逆に寝ている間に装用するコンタクトレンズがあることはご存じでしょうか。

知名度は低いですが「オルソケラトロジー」という方法があります。この方法では夜寝ている間に特殊な形状のハードコンタクトレンズを装用します。

なぜ、目を閉じている、しかも夜寝ている間なのかと疑問に思われる方もいると思います。

実はオルソケラトロジーレンズを装用すると夜寝ている間に角膜の形状が変化し、朝起きてレンズを外してもしばらくは角膜の形状の変化が持続するため、日中裸眼で過ごすことができるようになります。

国内では2009年以降医療機器として承認され、近視の矯正方法の選択肢の一つとして眼科専門医指導のもと処方されています。

【コラム】コンタクトレンズの始まりは〇〇が!?

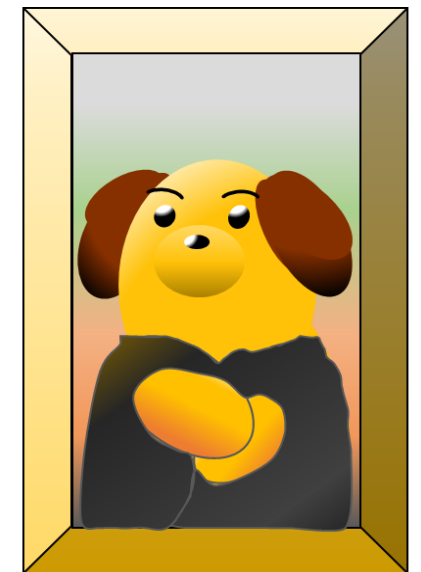
コンタクトレンズの原理は、コンタクトレンズと一見つながりが感じられない有名人が発見したと言われています。

さかのぼること500年ほど前、西暦1508年にその有名人は、ガラス製の球形の容器の中に水を満たし、顔をつけて目を見開いたところ、外の景色が違って見えることを発見しました。この発見がコンタクトレンズの原理の最初の発見であるという説もあります。その有名人は「モナ・リザ」などの絵画で有名な「レオナルド・ダ・ヴィンチ」です。

なお、世界で最初にコンタクトレンズ装用実験を行ったとの記録は、西暦1888年頃にスイスの眼科医オーゲン・フィックが自らの眼に装用したという実験の記録が残っており、その実験について発表した論文「Eine kontaktbrille」の“kontaktbrille”がもとでコンタクトレンズの名称が生まれたと言われています。

ちなみに日本国内で初めてハードタイプのコンタクトレンズとほぼ同じ形状の角膜コンタクトレンズが実用化されたのは1951年のこととなります。

株式会社メニコンホームページを参考に東京税関作成
<https://www.menicon.co.jp/ortho/orthokeratology.html>
<https://www.menicon.co.jp/ortho/treatment.html>
https://www.menicon.co.jp/whats/step1/more_history.html



作品名 カス・タム

【日本コンタクトレンズ協会からのお願い】 コンタクトレンズは使用方法を 守って正しく使いましょう！

コンタクトレンズは、視力を補正するのに利用したり、ファッション感覚で瞳の色の見え方を変えたりすること等ができる便利なアイテムです。

しかし、高度管理医療機器であるコンタクトレンズは使用方法を守らないと様々な眼障害が起きたり、最悪の場合失明の恐れもあります。

日本コンタクトレンズ協会では正しくコンタクトレンズを使用するための様々な安全啓発活動を行っており、右図6のようなポスターやリーフレットなどを発行しています。

その中から安全啓発の例をいくつかご紹介します。他、詳しくは以下にある日本コンタクトレンズ協会のURLをご覧ください。

- 眼科を受診しましょう

人それぞれ個人差があるところ、眼も十人十色です。特に初めてコンタクトレンズを装用する場合や度数、種類を変更する場合は眼科専門医を受診して適正なコンタクトレンズを装用するようにしましょう。

- 正しく使いましょう

コンタクトレンズには添付資料があります。それをよく読んだ上で正しく使いましょう。装用時間や使用期間を守ることが大事です。1日使い捨てレンズは外したら必ず捨てましょう。また2週間交換レンズ等の頻回交換レンズも使用期間を守りレンズケアを行いましょう。

- きれいに使おう

コンタクトレンズを取扱う前は手をきれいに洗いましょう。2週間交換レンズ等の頻回交換レンズ等は使用するケア用品の取り扱い説明書をよく読んで正しいケアを行いましょう。

一般社団法人 日本コンタクトレンズ協会URL <https://www.jcla.gr.jp/>



図6 一般社団法人 日本コンタクトレンズ協会 提供ポスター

【おわりに】

コンタクトレンズ市場の今後の見通しについて、業界によりますと、近視人口の増加やコンタクトレンズ使用者の年齢層の拡大により、遠近両用や乱視用、カラーコンタクトレンズなど様々な種類のコンタクトレンズの需要が拡大していることや、1日使い捨てタイプのコンタクトレンズへの需要のシフトによって、人口減少の中にあっても市場は着実な成長基調にあり、今後も輸入の増加傾向が続くのではないかと見ているようです。

【資料編】

国・地域別輸入数量（2017年、2023年）

国・地域（2017年）	数量（千枚）	数量（%）
アイルランド	1,380,059	40.4%
台湾	724,378	21.2%
ペルトリコ	533,103	15.6%
シンガポール	320,121	9.4%
米国	131,528	3.9%
その他	323,501	9.5%
合計	3,412,690	100.0%

国・地域（2023年）	数量（千枚）	数量（%）
アイルランド	1,494,488	33.3%
台湾	1,040,075	23.2%
ペルトリコ	738,448	16.5%
シンガポール	363,161	8.1%
米国	271,974	6.1%
その他	579,809	12.9%
合計	4,487,954	100.0%

国・地域別輸入金額（2017年、2023年）

国・地域（2017年）	金額（百万円）	金額（%）
アイルランド	63,251	44.8%
台湾	26,739	18.9%
ペルトリコ	15,757	11.2%
シンガポール	7,476	5.3%
米国	6,891	4.9%
その他	21,145	15.0%
合計	141,258	100.0%

国・地域（2023年）	金額（百万円）	金額（%）
アイルランド	74,155	38.1%
台湾	39,228	20.2%
ペルトリコ	22,690	11.7%
米国	15,084	7.8%
シンガポール	10,278	5.3%
その他	33,169	17.0%
合計	194,604	100.0%

税関別輸入数量（2017年、2023年）

税関（2017年）	数量（千枚）	数量（%）
東京税関	2,857,878	83.7%
横浜税関	242,781	7.1%
大阪税関	182,840	5.4%
その他	129,191	3.8%
合計	3,412,690	100.0%

税関（2023年）	数量（千枚）	数量（%）
東京税関	3,856,684	85.9%
大阪税関	296,371	6.6%
横浜税関	213,398	4.8%
その他	121,501	2.7%
合計	4,487,954	100.0%

税関別輸入金額（2017年、2023年）

税関（2017年）	金額（百万円）	金額（%）
東京税関	120,018	85.0%
横浜税関	8,685	6.1%
大阪税関	8,266	5.9%
その他	4,289	3.0%
合計	141,258	100.0%

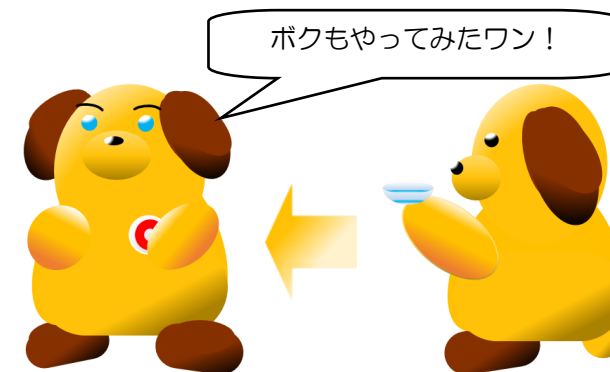
税関（2023年）	金額（百万円）	金額（%）
東京税関	171,592	88.2%
大阪税関	9,519	4.9%
横浜税関	9,052	4.7%
その他	4,442	2.3%
合計	194,604	100.0%

港別輸入数量（2023年）

港（2023年）	数量（千枚）	数量（%）
羽田空港	1,397,056	31.1%
東京港	1,382,504	30.8%
成田空港	1,077,124	24.0%
大阪港	263,478	5.9%
横浜港	213,398	4.8%
その他	154,394	3.4%
合計	4,487,954	100.0%

港別輸入金額（2023年）

港（2023年）	金額（百万円）	金額（%）
羽田空港	80,068	41.1%
東京港	47,886	24.6%
成田空港	43,639	22.4%
横浜港	9,052	4.7%
大阪港	8,002	4.1%
その他	5,958	3.1%
合計	194,604	100.0%



取材協力：一般社団法人 日本コンタクトレンズ協会
株式会社メニコン

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:050-5533-6995

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒144-8616 東京都大田区羽田空港2-6-3 貨物合同庁舎
<http://www.customs.go.jp/tokyo/>